

No.637

法音

11 令和4年
月号

日蓮宗
法音寺

今月のご法話

心の持ちようは人生に影響を与えます

勇猛精進

まこと
至誠

今日一日

奉仕の心がけで働きましょう

今日一日

人を喜ばせるように働きましょう

今日一日

たゆまず続けてゆきましょう

月刊・法音 令和4年11月号 No.637 目次

【信仰の指針】艱難かんなん 苦難がその人の真価を問うのです 1

【朝のこない夜はない】
心の持ちようは人生に影響を与えます 山首 鈴木正修 2

追悼・鈴木真喜子お庫裡さま 19

◆ 講日のご案内 39

◆ 有縁の支院・布教所にご自由にご参詣ください 40

◆ 御法推進全国大会のお知らせ 42

◆ 仏教漫画『日蓮さま』・⑧最初の信徒 43

◆ 最初の信徒 51

◆ お寺の本棚 52

◆ 常寂光土への誘い(4) 54

◆ のりのね体験 58

◆ 支院だより 60

◆ 福祉のひろば 79

○ 幸せのお手伝い 80

○ 昭徳会・創立110周年記念福祉セミナーを開催！ 82

○ 日本福祉大学・社会福祉学部がハッセン病療養所を訪問しました 84

◆ 賛助員ご芳名 86

◆ 幸せの種まき／編集後記 88

◆ 連載まんが・ひまわり・118 運の悪い1日 89

◆ 法音寺の社会福祉・教育事業 118

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま書 表紙写真・蓮の花

掲載写真 表紙・信仰の指針 3～19頁・梅田雅臣氏撮影

2頁・加納将人氏撮影

信仰の指針

かん
なん

艱 難

苦難がその人の

真価を問うのです

日教五



ゴマの実



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

心の持ちようは

人生に影響を与えます

コロナもようやく収束に向かっていると聞きます。

コロナ禍が始まってから、日本福祉大学に講演に行った時に新入生の悩みを聞きました。それは、リモートの授業が多くて、友達ができないということでした。サークル活動もできず、寂しい思いをしているとも聞きました。

自分自身のことを思い返しますと、東京の大学に行きましたので、知り合いもおらず、大学に入学した当初は友達がいまませんでした。私も早く仲間が欲しいな〴〵と思ったものです。当時の青年雑誌で今東光という瀬戸内寂聴さん



のお師匠さまが『極道辻説法』というコーナーで人生相談
をしていました。若者がいろいろな相談をしていましたが、
ある時の相談で「東京に出て来て一人暮らしを始めたけれ
ども、友達ができなくて寂しくてしかたがないです。和尚、
どうしたら友達ができますか」という質問がありました。
今東光和尚の回答が凄かったです。「そんなものいらない
だろう」でした。その理由は「寂しい、寂しいと言って、
人に擦り寄っていったら、ろくな友達ができない。それよ
りも堂々と自分の本分を尽して、やるべきことをやる。そ
うすれば自然に良い友達もできるし、恋人もできるかもし
れないぞ」ということでした。

人生は人と人との出会いによって形作られるものです。
昔のヨーロッパでのお話です。一卵性双生児の兄弟が両親
を亡くして路頭に迷い、食べる物にも困り、別々に泥棒に



はい入りました。その後一人は大泥棒になり、もう一人はキリスト教の大司教になりました。どうしてそうなったかという、大泥棒になった方は泥棒に入ったところに先に泥棒集団がいて、その仲間に加わり、どんどん頭角をあらわして大泥棒になったのです。もう一人の方は『レ・ミゼラブル』のジャン・バルジャンのように教会に泥棒に入り、ここで神父さんに諭されて訓育を受け、その神父さんを超えて大司教になったというお話です。一卵性双生児というのは遺伝子が全く同じだそうです。それが出会う相手によって人生が大きく変わったということです。

昔から「朱に交われれば赤くなる」と言いますが、誰しも出会った相手に影響を受けるものです。

禅語に「霧の中を行けば覚えざるに衣湿る」とあります。これは、善い人のそばにいれば、意識せずとも善い影響を



受ける。悪い人のそばにいれば、自ずと悪い方向へと流されていく。ということ霧に例えているのです。

ある時、お釈迦さまが弟子達に次のように説法されました。

「比丘達よ、私は外の人の因として、かほどに大いなる不利益をきたすものは、他に一因をも見ることを得ない。比丘達よ、それは即ち、友の悪しきことである。比丘達よ、友の悪しきは大いなる不利益をきたす。比丘達よ、私は外の人の因として、かほどにも大いなる利益をきたすものは、他に一因をも見ることはできない。比丘達よ、それは即ち、友の善きことである。比丘達よ、友の善きことは大いなる利益をきたす。比丘達よ。朝な朝な太陽が東に昇る時には、その先駆として、またその前相として、東の空に明るい相



が出るであろう。比丘達よ。それと同じく、比丘達が八つの聖道をおこす時にも、その先駆たり、前相たるものが存する。それは善き友のあることである。比丘達よ。善き友を持てる比丘において、八つの聖道を修習し、多修するのであることを期して待つことができる」

お釈迦さまは、善き友をもった人は、将来仏道を真つ直ぐに進んで悟りを得ることは間違いないとおっしゃっています。

常随の弟子、阿難がある時お釈迦さまに「大徳よ、善き友を有するということは、この聖なる道の修行の半ばを成すと考えても良いでしょうか」と尋ねました。するとお釈迦さまは、「違う。善き友を持つことは聖なる道の修行のすべてである。善き友を持つことによって、生老病死の苦から解脱することができなのだ。よって、善き友を持つこ



とは道の半ばでなく道のすべてである」と答えられました。

それ程、接する人の影響は大きいということでした。これはサング（教団）の精神です。仏教教団は法友が集まり、お互いに尊敬し、励まし合い、高め合って、仏道修行の成就を願います。善き友は本当に大事です。

当然誰しも、善き友が欲しいと思えます。しかし、まず自分が相手にとって善き友にならなければいけません。善き夫が欲しい。善き妻が欲しい。と思えば、自分がそうならなければいけません。善き子が欲しければ、自分が善き親にならなければいけません。

もう一つ、一卵性双生児のお話を紹介します。

これはアメリカの一卵性双生児の姉妹の話です。その姉妹の父親は浮気性で、よその女性と家を出て行ってしまい



ました。母親は落ち込んでアルコール中毒となり、子育てを放棄し、時に虐待をするという状況でした。そういう中で育った姉妹が後年どうなったか、一人はお母さんと同じようにアルコール中毒になり、その上麻薬にもおぼれ、刑務所に入ったり出たりという最悪の人生を送っていました。もう一人はというと、何と弁護士になっていたのです。そして同僚の弁護士と結婚し、子どもにも恵まれ、幸せな家庭を築いていました。

テレビ局がこの姉妹に興味を持ち、取材にきました。そして二人に「あなたは どうして、今の ような人生を送ることになったと思いますか」と質問をしました。これに対する二人の答えは同じでした。

「あんな家庭で育てば誰だってこうなるわよ」

その理由が、一人は「あんな母親に育てられたら、同じ



ようになるのはあたりまえでしょう」と言い、もう一人は「ああいう親のもとで育ったから、あんなふうになつてはいけないと思つたのよ」と言つたのです。同じ親のもとに育つても二人は真逆の人生を歩んだのです。この二人の何が違つたかという苦難の受け止め方です。

御開山上人が大變尊敬されて手本とされた人物にスイスの教聖。ペスタロッチという人がいます。御開山上人と同じように親のない子や障がい児のために人生を捧げた人です。そのお墓には「すべて他の為にし、何ものも己の為にせず」と刻んであるそうです。このペスタロッチが「苦しみに遭つて、自暴自棄に陥る時、人間は必ず内面的に墮落する。一方、その苦しみに耐えてこれ乗り越えた時、その苦しみは必ずその人を大成せしめる」と言っています。

アメリカの姉妹の話はこの通りです。片や内面的に墮落



し、片や苦しみを乗り越えて大成しました。心の持ちようは本当に大事です。

『文選』という中国の古い書物に「窮達は命なり、吉凶は人に由る」とあります。「困窮したり、榮達に恵まれたりするのは運命であり、どうしようもないことだ。しかし、その困窮榮達を吉にするか凶にするかは、その人次第」ということです。

アメリカの姉妹の場合、片方は吉にし、片方は凶としました。また、この姉妹と違って恵まれた家庭に育つ人もあります。そういう人でも吉を凶に変えてしまうこともありえます。『文選』にあるように、困窮榮達を吉にするか凶にするかは、その人の心掛け次第だと思えます。

5年程前に亡くなられました、上智大学の名誉教授、と



いより保守の論客としてつとに有名だった渡部昇一先生が、よく講演で大学時代の体験を話しておられました。大学に入学して間もなくお父さんが失職して学費が払えなくなりしました。もともと貧乏でしたが、そこからさらに苦しくなりました。しかし、どうしても上智大学に残りたいということで方法を探していると、成績が一番になると授業料が免除になることがわかりました。そこで渡部先生は全科目一番になるように猛勉強をされました。毎朝4時に起きて校内の井戸で水をかぶって心を奮い立たせて頑張られました。またその考え方がすばらしいと思っただのですが「一番になれば特待生になれるが、人と争って一番になるうとするのはさもない。だから全教科100点を目標そう。そうすれば他に満点の人がいても同じ一番だ」と思って勉強されたそうです。その結果、総合点で二番の人に200



点以上の差をつけて断トツの一番になりました。そして四年間その成績を続けられますが、二年生の時、全額給付のアメリカ留学の話が来ました。当時、アメリカへの渡航費用は平均的なサラリーマンの年収ほどかかりました。向こうでの学費、生活費もとても高額でした。アメリカ留学は三人募集があり、英文科の学生である渡部先生は当然応募しました。成績が断トツで一番なのですから、当然自分は選ばれるだろうと思っていきましたが、選ばれませんでした。そこで担当教授に落とされた理由を聞きました。すると「悪いな、渡部君。面接をしたアメリカ人の先生が、渡部君は社交性がないと言った。社交性がない人間は、アメリカでは上手くやっていけないだろうということで落とされたそうだよ」と言われました。

渡部先生は儉約に儉約を重ね、教科書や参考書以外の物



を買^かう余裕^{よゆう}はありませんでした。服^{ふく}も靴^{くつ}もボロボロでした。タバコは吸^すわず、お酒^{さけ}も飲^のまず、映画^{えいが}や喫茶店^{きっさてん}にも行くこともありませんでした。渡部^{わたなべ}先生^{せんせい}は、社交性^{しゃこうせい}がないと言^いわれてもしかたがないな^ぐと思^{おも}ったそうです。それでも、非常に^{ひじょう}落ち込^おみました。後年^{こうねん}その時^{とき}のことを次^{つぎ}のように述^{じゅつ}懐^かしておられます。

「自分^{じぶん}を高^{たか}めていく過程^{かてい}では、常^{つね}に何^{なに}かの形^{かたち}で壁^{かべ}にぶつか^るものである。はたから見^みれば取る^とに足^たらない小^{ちい}さなことも、当人^{とうにん}にとつては大^{おお}きいことである。そんなとき、なげやりにな^なったり後退^{こうたい}したりしないで進^{すす}むためには、いくつかの方法^{ほうほう}がある。私^{わたくし}の場合^{ばあい}、聖書^{せいしょ}の中^{なか}の、最後^{さいご}まで耐^たえ忍^{しの}ぶ者は遂^{つい}には救^{すく}われるべし^ぐ」^{ことば}という言葉^{ことば}と、昔漢文^{むかしかんぶん}で習^{なら}った志^しある者^{もの}は事竟^{ことつひ}に成^なる^ぐという言葉^{ことば}を、あたかも念^{ねん}仏^{ぶつ}のように唱^{とな}えること^{こと}で心^{こころ}を鎮^{しず}めた。壁^{かべ}に突^つき当^あたったと



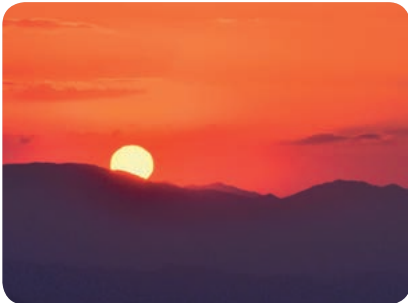
感じるかんときは、散歩さんぽしながらでも、寝る前ねまえでも、この言葉ことばを繰り返くし唱となえた」

この後ごも変わらず、渡部先生わたなべせんせいは刻苦勉励こつくべんれいされ、併あわせて英えい国流こくりにゅうの社交術しやうこうじゆつも学まなばれ、ついに念願ねんがん叶かなって25歳ささいの時にドイツのミュンスター大学だいがくに留学りゅうがくされ、続つづけてイギリスのオックスフォード大学だいがくにも留学りゅうがくされました。渡部先生わたなべせんせいはこの時のことを「天てんが梯子はしごを降おろしてくださった」と言いっておられます。

その後ご、元々もともと留学りゅうがくしたかったアメリカには招聘教授しょうへいきょうじゆとして赴おもむかれ、全米各地ぜんまいかくちで講義こうぎをされました。

「艱難かんなん汝なんぢを玉たまにす」という言葉ことばがあります。艱難かんなんに遭あうことによつて、人は立派りっぱな人物じんぶつになれるという意味いみです。

仏教詩人ぶつぎょうしじんの坂村真民さかむらしんみんさんが、若い頃わかころ、病魔びやうまに侵おかされ生死せいしの境さかいをさ迷まよわれる中で詠よまれた詩しがあります。



「苦がその人を 鍛えあげる 磨きあげる 本ものにする」

苦にどのよう^くに処^{しよ}するか、そこが肝^{かん}心^{しん}です。

渡部先生は講演の時、ご自分の恩書として幸田露伴の

『努力論』をあげておられました。この本を渡部先生は生

涯、座右の書とされ、ドイツでもイギリスでも、アメリカ

に行かれた時も、いつも傍らに置いておられたそうです。

『努力論』は幸田露伴の成功哲学です。この第一章に運命

についての記述があります。

「注意深き観察者となって世間のありさまを見てみると、

成功するか失敗するか、幸せになるか不幸になるか、その

急所というものがよくわかる。成功する人、幸福を手に入

れる人は、幸運をたぐりよせる紐を引っ張っている。失敗

する人、不幸になる人は不運をたぐりよせる紐を引っ張っ

ている。その紐というのが、幸運な人の方は引くと手から



血が出るような荒縄のような紐だ。不幸を引っ張り込む人は、絹の糸のように手触りが良い」とあります。これはどういふことかという、成功する人というのは、失敗をことごとく自分のせいにし、不幸になる人は逆に、失敗をことごとく人のせいにするということです。

渡部先生は「会社でもそうだと思う。部下のせいにはしない経営者、経営者のせいにはしない部下がいるところは必ず上手くいく。失敗を自分に引き寄せて考えることを続けた人間と、他人のせいにすることを続けた人間とは、かなりの確率で運の良さが違ってくる」と言われています。

iPS細胞でノーベル賞を受賞された山中先生も「上手くいった時はお陰さま。上手くいかなかった時は身から出た錆」と言われています。経営の神さま、松下幸之助さんも「僕はな、物事が上手くいった時は、いつもみんなのお



陰かげと考かんがえたんだ。上うま手てくくいいかかななかかつつた時ときは、すすべべてて自じ分ぶんに
原げん因いんががああるるとと思おもっっててききたたんだ」と言いわわれれてていいまます。アアメメリ
カカのの姉し妹まいのの運うん命めいがが変かわわつつたたとといいううののも、一ひと人りはは親おやののせせいいに
しして、一ひと人りはは親おやののせせいいににせせず、そそれれをを反はん面めん教きょう師しととしして、自
分ぶんでで運うん命めいをを切きりり開ひらくくんだ」と考かんがえた結けつ果かのの違ちがいいだだとと思おもいいま
す。



鈴木真喜子お庫裡さまが

ご逝去されました

謹んでご冥福を

お祈り申し上げます



鈴木真喜子お庫裡さま 歎徳文



かんじう たまう なむりんねんぐそくみぞうだいまんたらごほんぞん
 勧請し奉る南無輪圓具足未曾有大曼荼羅御本尊
 なむくおんじつじょうだいおんきょうしゆほんししゃかむにぶつ
 南無久遠実成大恩教主本師釈迦牟尼佛 南無證明
 ほつけたほうだいぜんぜい
 法華多寶大善逝 南無十方分身三世の諸佛 南無

上行無邊行淨行安立行等本化地涌六萬恒河沙の諸
 大薩埵 南無文殊普賢彌勒葉王葉上勇施妙音觀音
 等迹化他方來の大権の薩埵 南無身子目連迦葉阿
 難等新得記の諸大聲聞 殊には南無末法有縁の大
 導師宗祖日蓮大菩薩 大乘山法音寺始祖廣宣院殿
 安立大法尼 二祖弘教院殿宗玄大徳 御開山泰山
 院日進上人 第二世顕修院日達上人等歴代の諸上
 人 別しては閻羅法皇五道の冥官冥衆等に申して
 日さく 方に今この道場に棺廓を安置し葬送の儀
 を修する所の一靈魂あり その凡名鈴木真喜子を
 改め 新たに日蓮宗最高位の法號を授与して慈泉
 院殿温和妙真大姉と號す

此れは是法華經受持の行者なり 仰ぎ願くは上
 來勧請の諸尊哀愍加被の御手を垂れ 靈也をして

寂光の寶刹へ攝取引導し給えと爾か云う

新婦寂慈泉院殿溫和妙真大姉 今靈也が為に佛

祖の要文を諷誦し以て靈山往詣の教訣と為さん

諦聽諦聽 善思念之

夫れ惟うに天地の中 宇宙の間 物として起滅

せざるなく 法として消長せざるなし 茲を以て

三明六通の阿羅漢も猶お飛花落葉を悲しみ 妙覺

果満の釈尊も遂に雙林の雲に隠れ給う 況やそれ

以下の凡夫をや 諸行無常是生滅法即ち是なり

状を案ずるに靈也は昭和四十一年八月九日

父館正義氏 母啓子女の次女として 岐阜県中

津川市に生を享く 仏縁ありて平成四年法音寺山

首鈴木正修上人に嫁し 常に正修上人を扶け仏祖

三宝に給仕し 山門の護持に精進したり その三

徳の実踐は檀信徒の鑑なり

又その性 質直柔軟にして志念力堅固・堅忍不

抜にして愚痴不足を口にすることなし 檀信徒に

恋慕せられし素晴らしき寺庭婦人なり 正に法華

經受持の善女人なり 内には一男一女を授り 長

女安佐子女 長男廣修師の母として養育に専念す

その慈愛に満ちた慈育により愛子ともに成人し

愛孫にも恵まれる 正に無上の喜びの日々を送る

中 天命なるかな 突如の体調不良により去る九

月二十四日五十有七歳の若きを一期として溘焉と

して歿しぬ

嗚呼悲しいかな

今や靈也の姿をこの道場において拝すること叶

わざれども その積まれし功徳は道場に薰習せり

又靈也またれいやの肉團にくだんの身みは此こゝに滅めつすと雖いさもその本體ほんたいを尋たずぬれば本佛果海常住不滅ほんぶつ かかいじょうふふめつの身み 妙法蓮華經なうほうれんげきやうの當體たうたいなり 法華經ほけきやうに曰いわく所謂諸法いわゆるしほうの如是相性體力によぜ そうじやうたいりきさ因緣果報いんねん かほんまつくきやうとうと云々うんぬん 又曰またいわく如來によらいは如實によじつに三界がいざうの相ちけんを見けんす 生死しやうじの若もしは退若たいじやくしは出しゅつあることなく 亦また在世ざいせい及滅度おがめつとの者ものなし 實じつに非あらず虚こに非あらず如によに非あらず異いに非あらず 三界がいの三界がいを見けんるが如ごとくならず 是かくの如ごときの事じ如來明にらみかに見けんて錯謬さくみゆあることなし

宗祖しうそ日蓮大聖人にちれんたいしやうにん示しめして曰いわく 今本時いまほんじの娑婆世界しやばせかいは三災さいを離はなれ四劫しきやうを出いでたる常住じやうじやうの淨土じやうどなり 佛ほとけすでに過去かこにも滅めつせず未來みらいにも生しやうぜず 所化しよけ以もつつて同體どうたいなり 是これ即すなはち己心こしんの三千具足せんぐそく三種しゆの世間せけんなり 又曰またいわく正直しやうじきに方便ほうべんを捨すてて唯法華經ただほけきやうを信しんじ

南無妙法蓮華經なむなうほうれんげきやうと唱となうる人は 煩惱業苦ぼんのうごうくの三道法どうほう身般若解脫しんぱんにやげだつの三德さんとくと轉てんじて 三觀さんがん三諦さんたい即すなはち一身しんに現あらわれ その人所住ひとしよじやうの所常寂光土ところじやくこうどなり 能居のうご所居しよご身しん土色心どしきしん 俱體俱用無作くたいくゆうむさの三身さんしん 本門ほんもん壽量じゆりやうの當體蓮とうたいれん華けの佛ほとけとは日蓮にちれんが弟子檀那等でしだんなとうの中なかの事ことなり 是これ即すなはち法華ほつげの當體自在神力とうたいじざいじりきの顯あらわす所の功能くわんなり 敢あえて之これを疑うたげずからずと 更さらに靈山往詣りやうぜんぢやうけいの安心しんを示しめして曰いわく 日蓮にちれんは日本第一にほんだいの法華經ほけきやうの行者ぎやうじやなり 日蓮にちれんが弟子檀那等でしだんなとうの中なかに 日蓮にちれんより後のちに來きたり候をらわば 梵天帝釋ぼんでんたいしやく四大天王閻魔法皇だいてんのうえん まほうおうの御前みまえにても 日本第一にほんだいの法華經ほけきやうの行者ぎやうじや日蓮坊にちれんぼうが 弟子檀でしだん那ななりと名乗なをのつて通とおり給たまうべし この法華經ほけきやうは三途ずの河かにては舟ふねとなり 死出しでの山やまにては大白牛車だいびやくごしやとなり 冥土めいどにては燈あしひとなり 靈山淨土りやうぜんじやうどへ參まいる橋はし

なり 霊山へましまして良の廊にて尋ねさせ給え
 必ず待ち奉るべく候と云々 今霊也が棺廓をこの
 處に安置し 法音寺檀信徒鈴木家親戚故舊相会し
 て 葬送の儀を修し香を焼き法華經を誦し 以つ
 て霊也を霊山浄土に送る 霊也夫れ永く忘失する
 こと勿れ 南無妙法蓮華經

維時 令和四年九月二十六日

熱田清正山栄立寺

日 康

敬白



通夜儀式・9月25日

ご挨拶

廣顕院日教



法音寺檀信徒の皆さま、当山庫裡 故鈴木真喜子 慈泉院殿温和妙真大姉の通夜・葬儀に際しまして格別のご厚情を賜りましたこと衷心より御礼申し上げます。

いまだ真喜子がなくなったことが信じられない思いでおります。亡くなる数日前に二人で孫の世話に行ったとき、とてもうれしそうに孫を抱いてあやしておりました。その姿が目には焼きついて離れません。

近年、真喜子は体調をくずすことが多々ありました。しかし、持ち前の忍耐強さでお寺の行事を休むことはありませんでした。時には、信者さんの前では笑顔を見せていたものの、控えの部屋では倒れるように横になっていたこともありました。真喜子はいつも信者さんや職員の皆さんに対し

て、とても細やかな心遣いをしておりました。亡くなった後に多くの方から、とても親切にしても良かったという話をうかがいました。弔問においていただいた高校時代の友人の方にこの話をしますと「マキちゃんらしいですね。学生時代からマキちゃんは何事にも全力投球で、休むとか怠けるということが全くない人でした。いつも他人を喜ばせることが大好きで、自分のことは二の次、三の次でした」と言われました。私が今思いますのは、もう少し自分自身にも優しくしても良かったのではないかということです。

私はこの度のことでとても大事なことを学びました。世の中のほとんどの人が実際に愛する人を失うまで、死別の悲しみがどのようなものか、本当にはわかっていないということです。私自身も

そうでした。これまで愛する人を亡くされた方々に「お寂しいですね」「お辛いですね」と声をかけさせていただいておりますが、その方の深い悲しみを本当には理解していなかったのです。人間は誰しも大なり小なり悲しみや苦しみを背負っているものです。これからは檀信徒の皆さんの心に真喜子のように、真に寄りそって生きていきたいと思っております。

今回、改めて仏教が慈悲の教えであることを認識しました。法華經の実践は即ち大慈悲の実行であります。大善を大善とすべく、これよりは皆さまとともに真の三徳の実行に励んでまいります。どうぞ廣修、みずきともども、ご支援の程をよろしくお願い申し上げます。

亡き母とつながる

鈴木廣修



法音寺檀信徒の皆さま、日頃より三徳のご精進、誠にご苦勞さまでございます。また、先月末の母の通夜・葬儀におきましては、大変大勢の方にご参列賜り、改めて深く御礼申し上げます。

数年前より、母は度々体調を崩すようになりましたが、今回の入院で突然の別れが来ようとは家族の誰ひとりとして予測しておりませんでした。最後の別れを言うこともできず、亡くなった母の姿を前にした時は、喪失感、虚脱感で、何も考えることができませんでした。しかし、通夜・葬儀にて大勢の方にご参列・お焼香を賜り、その中で檀信徒の方々お一人おひとりを拝見することで、母が大勢の方に支えていただいていたことを思い出しました。そして母が生前、一生懸命お手伝いをしてきた姿が蘇り、生前の母のことを振り返る

ことができました。

思い返すと、母は家の中でもいつもお寺の心配をしていました。お寺から帰ってきた後も家の中でもずっとお寺の話をしているので、少し休んでほしいと思ったこともありました。講日の日になると、その日どんなに体調が悪くても、「絶対に お寺には行く！」と言って譲りませんでした。ある時、私がムキになって、「いいから休んでくれ！」と言いました。しかし、「母さん、仏さまのことやお経のことはむずかしくてあまりわからぬいの。でも、母さん、お寺に行くことだけはできるの。それだけはちゃんとやりたいの。お寺に行った方が安心できるの」と言って、どんなに辛くてもお寺に顔を出すことだけは徹底していたのを

覚えています。

このように、常に謙虚な母でしたが、何かの時に一度だけ、「母さん偉いでしょ。ほめて！」と、私に言ったことがあります。その時は照れくさくて、「はい。はい」と面倒くさそうに流してしまったのですが、今となっては母に、「偉いね。体が悪いのによく頑張ったね。偉いね」と優しく言うてあげたいです。

息子の立場から見た母は、いつも優しすぎるほどに優しい親でした。しかし、先に述べましたように、自分の本当に大切な信念は絶対に曲げない頑固な一面もありました。そして、どんな時でも正直でした。そんなこと正直に言われてしまったら困ってしまう、と思うようなことも、嘘をつかず正直に言っていました。それゆえに、母



と最後に話すことはできませんでしたが、きっと母が本当に伝えたかったことは、もうすべて受け取っているのだと思います。

さて、この機に母から学ばせていただいたことが一つあります。それは、「お参り」というのは亡き人と精神的につながる尊い行いだということです。

以前、身延山の道場で先生がおっしゃっていました。

「『お参り』をする時は、今自分が何をしているのか想像しながらお勤めをなさい。例えば勧請の際は、お呼びした仏さま方が本当にその場にいるらっしゃっているのだと想像しなさい。そしてお経を唱えている間は、その仏さま方にお経の功德

を目の前でお納めする気持ちでいなさい。最後に、奉送の際は、仏さま方をお見送りし、まさにその瞬間、仏さま方がそれぞれの仏国土にお帰りになるところを想像しなさい」と。

母が亡くなったその日、一人で枕経を行いました。勧請で、「南無本師釈迦牟尼仏」と唱えた時、ついに母の死を実感し、涙が止まらなくなっていました。しかし一生懸命、仏さま方をお呼びする気持ちで勧請を読み上げました。すると、仏さま方がいらっしゃったその場に、母の魂が一緒にいるような気がいたしました。目の前の弱々しい体から解放され、安らかになった母の魂が、仏さまの御手によつて、「偉い。体が悪くてもよく頑張ったね」と優しく抱擁されているように感じました。お経を唱えている間も、私のお経を好

きでいてくれた母が、仏さまとともにそこで優しく聞いてくれているような気がいたしました。最後の奉送では、母が仏さまとともに向こうの世界へ旅立っていくのを感じました。

日蓮聖人の御遺文に、「妙法五字の光明に照らされて本有の尊形となる」というお言葉があります。「本有の尊形」には、「その人本来の最も輝かしい姿」という意味があるそうです。これも道場の先生に教えていただいたことですが、人は亡くなった後、お題目の五字によつてその人本来の最も輝かしい姿になることができます。若くして亡くなった方も、百歳まで生きられた方も、皆その時の年齢・姿に関わりなく、その人の持つ最も輝かしい姿になるそうです。

仏さまに抱かれて旅立った母は、とても健康で、

明るく、力いっぱい笑っていて、ラーメンを食べるのが大好きで、年子の子育てで鍛わった力こぶが自慢だった頃の元気な姿でいるのだと思えました。また、家族はもちろん、檀信徒の方々の幸せが自分の幸せだった優しい母の姿で、仏さまとともに旅立って行ったように思いました。

病室で亡くなった母を見た時には喪失感しか感じられませんでした。しかし、お参りをしている最中に、お経と仏さまを通じて亡き母の安らかな魂と精神的につながれたように思い、こうして母といつでも会えるのだと信じる事ができました。

翌日、翌々日の通夜・葬儀においても、仏さまと亡き母の魂を感じながら手を合わせました。

最後に、世間には「葬式仏教」という言葉があります。お寺は、亡くなった人ばかりでなく、生きている人に目を向けるべきだという批判の意味が含まれているそうです。私も、未熟ながらそう感じたこともあります。しかし、この「葬式」「お参り」こそ、亡き人と精神的につながることができ、仏教にしかできない極めて尊い行いだということを、母の死を通し、改めて、今さらながらに勉強させていただきました。亡き人、ご先祖さまの前で手を合わせるこの尊さを実感いたしました。自分自身の未熟さを実感するお話ではありませんが、皆さまの日々の信行の助けになれば幸いです。また、どうか皆さまもお身体を大切に、くれぐれもご無理のないようお勤めなさってください。

弔 辞

◆ 進師法縁法音会

鈴木真喜子お庫裡さまの突然の訃報に接し、驚きと悲しみに打ちひしがれています。ご参列の皆さまもきつと同じ心境ではないかと思えます。

お庫裡さまが嫁いで来られた日、仏さまの世界から天使が舞い降りて来られたかと思紛うようでした。あの時から三十年、可憐で優しいご様子はまったく変わることがありませんでした。

お庫裡さまは常に信者さんお一人おひとり寄り添い、透き通る声で優しいお言葉をかけられました。悲嘆に暮れる方には自分のことのように一緒に悲しまれ、善きことのあった方にはご本人以



上に喜んでくださいました。お庫裡さまとお話をさせていただくと春風に包まれたように、悲しみ・苦しみは癒されて半分になり、喜びは倍以上に膨らみました。お庫裡さまのお姿をお見かけすると皆さんつい、お声を聞きたくて、お言葉をかけ

ていただきたくて、引き寄せられるようにお側に集まりました。お庫裡さまが分け隔てなく皆さんと接するお姿に、慈悲の行いそのものを教えていただいたように思います。

お庫裡さまは常には、お淑やかでゆったりとしたご様子ですが、いざという時は迅速果断に行動される方でした。私の妻が長男を懐妊して間もない頃、体調が優れず伏せていました。私が逡巡しながら出かけている間に、さつと車で八事日赤病院まで連れて行ってくださっただけでなく、診察にも付き添ってくださいました。お庫裡さまのお陰で妻は後に無事、出産の日を迎えることができました。ありがとうございます。

また、お庫裡さまは穏やかで物静かな方でしたが、たいへん堪忍強い方でもありました。きつと

痛みも激しくあられたでしょうに、数日前にお目にかかった時も一切、お顔に表されることはなく、私達は気づくことができませんでした。もし気づくことができたならば、と悔恨の念が尽きません。目を瞑ると、今もお庫裡さまのお声が心の中にこだまします。もう、あのお優しいお姿と心潤されるお言葉にふれることができないと思うと、寂しくて仕方ありません。

しかし、悲嘆に暮れてばかりはいられません。お庫裡さまの真心に救われた私達がそのご恩に報いる道は、少しでもお庫裡さまのような、慈悲心あふれる姿勢で周りの方達に接していくことだと思えます。お庫裡さまのようにはとてもできそうにありませんが、一歩でも半歩でも近づけるように励んで参ります。どうかあの慈愛に満ちた笑顔

で私達をお見守りください。

お庫裡さまの御霊の安らかなることをお祈りし、ご挨拶に代えさせていただきます。

令和四年九月二十六日

明川支院主管 毛利 行徳

◆ 寺庭婦人

お庫裡さま、突然のお別れで言葉ありません。間違いではない、何度も訃報の知らせを見直しました。

思い返せば、初めてお庫裡さまにお目にかかったのは山首上人さまとの結婚式当日でした。私は当時、名古屋におりまして、新婦様控室のお手伝いをさせていただきました。その時、何て素敵



な方かしら：と思いました。今後、お寺の行事などの折にお話しするご縁がいただけたら、と楽しみにしております。それから、お寺でお目にかかりますと、いつもお庫裡さまからお声をかけていただき、謙虚に振るまわれるお姿に感動し、私

も謙虚になれるように少しでも近づけたら、と思わせていただいたことを思い出します。

また、本部の講日には、山首上人さまの教化室へ来られる檀信徒の方々にいつもにこやかに心のもつたお茶のご接待をされて、皆さんお庫裡さまとお話ができますことを、とても楽しみにしていらつしゃいました。私もその中の一人でございます。

小さいお子さん達には、ジュースを用意してお子さんが喜ばれるように、ご家族で落ち着けるように心配りされていたことも思い出されます。

そして、最後に私がお庫裡さまからお言葉をかけていただいたのは、九月十七日の講日が終わった時でした。私がお寺で後片づけをしておりますたら、そこへお庫裡さまが来られて「なにかお手

伝いすることはありませんか？」と声を掛けてくださいました。私はもったいなくて、「いいえ、私がさせていただけますので、すぐ終わりますから…」とご返事したら、「いえ、お手伝いさせてください。私はそれがうれしいのです」と優しくおっしゃって、そのお言葉について甘えてお願いさせていただきました。

いつもご自分から率先して皆さんのために心遣いされるお姿が心に残っております。

お庫裡さまのお姿を通して、お教えいただけただけのことを心より感謝しております。本当にありがとうございます。

令和四年九月二十六日

寺庭婦人代表 前原 則子（岐阜支院）

評伝

真喜子お庫裡さま…

お庫裡さま——初めてお会いさせていただいたのはご結婚式の朝でした。

「副山首上人さまのお嫁さま」——。

境内でお待ち申し上げました。

白無垢のお嫁さまが来られました。♪当方、お寺の写真係の者で…♪と自己紹介させていただいて、無縁にも寺務所入口前の階段を昇り切った所で、♪すみません。ここで一枚…♪とお願ひしましたら、少し微笑んでカメラの方を向いてくださいました。ファインダーを覗いて、息を呑みました。その瞬間、思い浮かんだのは無財の七施の一、「和顔悦色施」でした。

先師・顕修院日達上人はこのようにご指南くだ

さっています。

○和顔悦色施

|| やわらかな表情で応対できますか？

○和顔 || 気持ちの良い顔をしていますか？

○悦色 || いつも喜べることはありませんか？

♪ ああ、この方は既に、法音寺三徳を身にお具えになっておられる♪

これが初めての、ファインダーを通して見、感じた正直な印象でした。そして、こんな不遜なことも…。

♪ 副山首上人はここに惹かれたのだ！♪と。そして、♪ このお方は副山首上人の？♪と。

いっぺんにうれしくなり、その日一日、いっばい撮らせていただきました。

法音寺三徳の継承者について、故・祖父江妙綱法尼が常々言われていたことが思い起こされます。

「三徳の法灯を継承された山首上人（先師・日達上人）は天の勅任官・安立行の四代目です」と。

赴かれる先がどこでも、また、会われた人が誰でも、若くして法灯を継承された方を紹介しておられました。

こんなことがありました。法嗣・廣修上人は得度をされてすぐ、身延山久遠寺の僧道実修に入行されました。在山中、ご講演をされたそうで、そのDVDを見せていただきました。廣修上人はこんなお話をされました。

初めの内は日蓮聖人の「身延山御書」よろしくお山を紹介されました。

「身延山の栖まかは——峨峨ががたる深山しんざん聳そびえて——実相真如の月浮かび——伝え聞く釈尊の住み給じゅいし驚おどろ峰ほう——」と。

でも、やはりご修行は厳しく、辛かったのでしょう、ご苦難の日々を話されました。夜半の、うつそうと繁る大木の間から月光が冷たく冴え渡る情況の中、故郷のご両親を思い起こされることもしばしばあられたことと思います。

その時、「覚り」を得られたかのように日蓮聖人のご遺文「事理じり供養くよう御書ごしょ」の一節を紹介されました。

「爾前にぜんの経経の心は、心の住むは月の如し、心の清きは花の如し。法華経は然らず、月こそ心よ、花こそ心よと申す法門なり」と。続いて如来神力品の日月偈「日月の光明の能く諸の幽冥を除くが

如く」を紹介されました。これは日蓮聖人が「日蓮」と名乗られるきつかけとされたお言葉——「法華経は日月と蓮華となり。故に妙法蓮華経と名く。日蓮又日月と蓮華との如くなり」（四条金吾女房御書）です。

正直驚きました。〳〵得度して一年にも満たないのに……と。その感動抑え難く、思わずペンを執り、山首上人さま・お庫裡さまにお手紙をしたためさせていただきました。数日後お会いできた時、〳〵遺文のあのお言葉は日達上人が大好きで、よくお聞かせいただきましたと申し上げますと、びっくりされながらもとてもお喜びになられました。きつとどこかで、法灯の「つながり」を確信され、お喜びになられたに違いありません。

もう一つ、お庫裡さまに日達上人が大好きであられたお言葉をお伝えさせていただきます。

「如我昔所願・今者已満足」（昔願ったことは、すべて叶い満足している）です。とても善いことがあられたのか、それとも当方の提案に御意が得られたのか、突然おつしやられたので、エッ？と聞き返しましたら、〳〵方便品にあるよと。あわてて經典を開いてみましたらありました。

「欲令一切衆・如我等無異」に続く偈文でした。そうです。御開山上人の昭徳会・日本福祉大学創立・運営の理念。釈尊の金言「すべての人を、我が如く等しくして異なることなからしめんと欲しき」です。

安立行第五代に嫁がれて三十年。山首上人さま

はじめ、ご遺族の方々には顰蹙を買うかもしれないが、今きつとお庫裡さまを迎えられ、御開山上人も日達上人もニコニコニコ微笑まれ「和顔悦色・今者已満足!」と、讃歎・歓喜されているに違いありません。

「鷲峰」の、安立行代々の四師のみ前におわしますお庫裡さまにお誓い申し上げます。

「仏久しく世に住せば、薄徳の人は善根を種えず…」と如来寿量品にあります。お遺しくくださった「和顔悦色施」を護持し、きつと実行させていただき、徳積みに励ませていただきますことを…。
永い間、本当にありがとうございます。

合掌

〔文責・在記者〕



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では
毎月の講日の中で

三徳の教えを聞くことができます。
是非講日にご参詣いただき
教えを心にしみ込ませましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

安芸津支院	11月13日(日)	平賀支院	11月15日(火)
京都支院	11月20日(日)	大阪支院	11月23日(祝)

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

支院・布教所名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	3日・19日・26日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	3日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	3日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	3日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・26日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825
佐屋支院	3日・13日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0568)72-7208
一宮支院	3日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0568)22-5813
西春支院	3日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(058)245-2939
岐阜支院	3日・14日・18日・23日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)388-2740
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(0584)78-4854
大垣支院	3日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0575)22-0776
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)23-3771
平賀支院	3日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)65-3933
郡上八幡支院	3日・20日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(059)352-3633
四日市支院	3日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(0595)21-0127
上野支院	3日・11日・21日	伊賀市上野向島町3-4-75	

☎連絡は本山寺務局へ

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	3日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	13日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	12日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	3日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	3日・12日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	3日・5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	3日・8日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	3日・20日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	12日・27日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	3日・13日・20日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	6日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	6日・15日・20日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	13日・27日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	3日・13日・27日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	3日・7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	9日・19日・26日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	14日・27日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※スケジュールは変更されることがあります。詳しくは各支院・布教所にお問い合わせください。(掲載順不同)

御法推進全国大会

のお知らせ

令和4年11月3日(祝・木)午後2時より

法音寺各支院(一部布教所)にて

YouTubeライブ配信

プログラム

- ・ 法要
- ・ 山首上人さまご法話
- ・ 各委員会からの報告

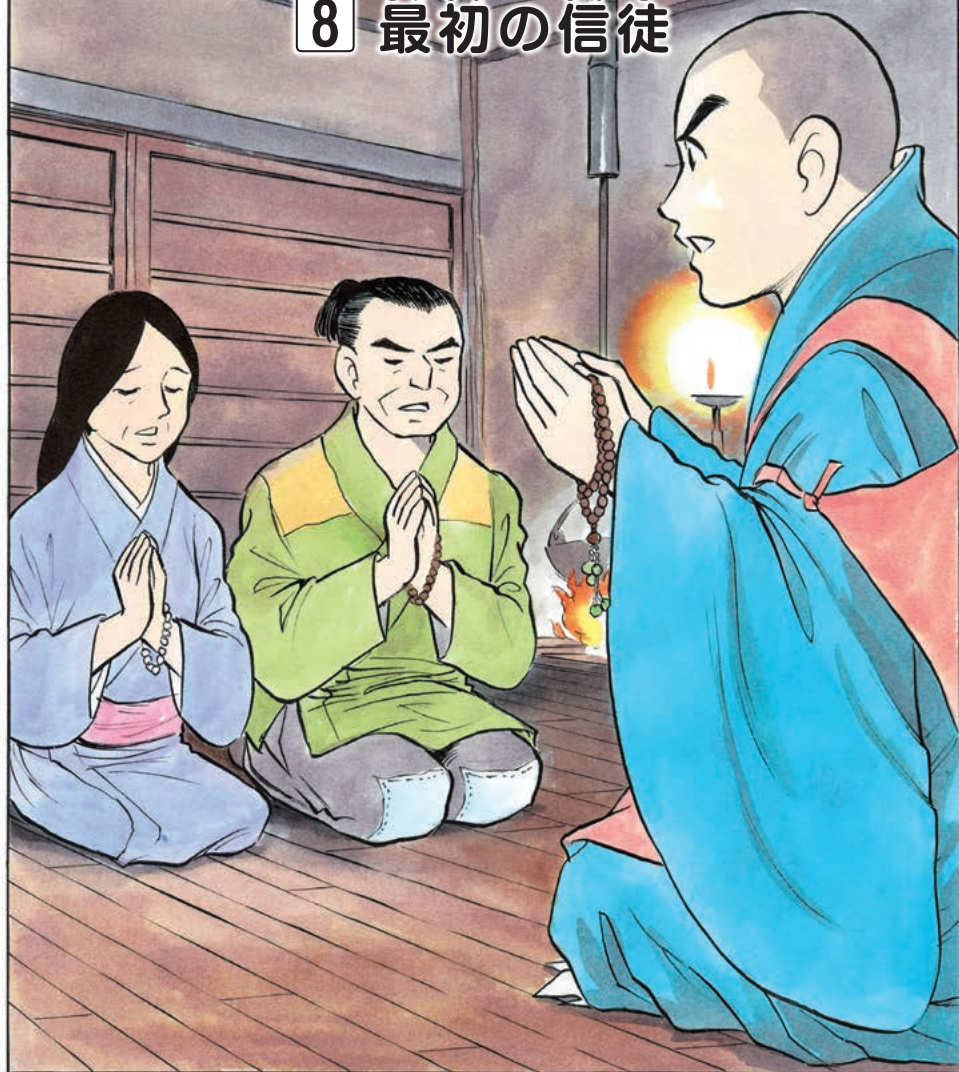
参詣記念DVD

- ・ 法音寺メッセージ
- ・ 昭徳会CM
- ・ 日本福祉大学紹介

※詳細は本山・支院・布教所にお問い合わせください

に ち れ ん
日蓮さま

8 さいしょのしんと
最初の信徒





清澄寺を追放された日蓮は
 兄弟子に守られて地頭東条景信の
 追討を逃れながら山を下り
 西条村の蓮華寺に身を寄せました
 鎌倉へ行き法華経の布教を
 することを決意した日蓮は…



安房小湊



父上

入れ





母上



早よあが
早う上れ



母上…
おひさじゆう
ごぞうます



案じて
おりましたぞ



まあ
待ちなさい



そなた途方もない
説教をして
地頭さまの激しい
お怒りをおかした
聞きました



この間のことは
深い考えが
あつてのことだろう

あれから役人が
たびたびここへも
来たが無事で
よかった



こんな土間には何者の目にかかるやも知れぬ
さ 奥へ



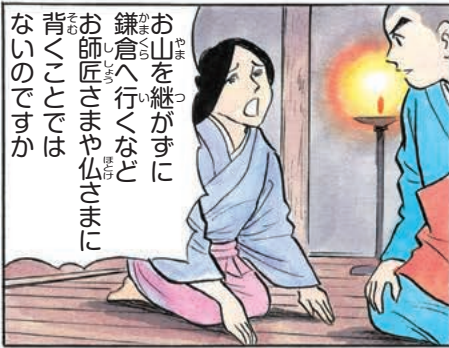
父上 母上
ご心配をおかけ
しました

お師匠さまの
計らいで
兄弟子二人に
守られ 今まで
西条花房の
蓮華寺に
おりました



でそなた
これからどうする??

はい
鎌倉に赴く
所存です



お山を継がずに
鎌倉へ行くなど
お師匠さまや仏さまに
背くことでは
ないのですか



母上
そつてはありませぬ
お山を継ぐのではなく
釈迦如来の御心を
継いで妙法蓮華經を
日本国中に弘めることこそ
恩師や仏さまの恩に
報いることなのです



それでは仏さまの
御心と違ったことを
するのではない
のですか

もちろんです



しかし鎌倉へ赴くと云つが
鎌倉の武士達は
執権殿をはじめとして
熱心な禅・念仏の信者が
多いと聞いておる

持仏堂での騒ぎに
してもあの通り
東条殿はそなたの
命を絶つと言つて
おるが…



いえ 私には
殺されませぬ
鎌倉へ行き
世のため人のために
法華経の布教に
つとめます

おほ
大きな仕事は
これからです



その覚悟なら
己の道を信じて
行くがよい

父上…

母上はわかつて
いただけましたか

命に替えても
法華経を弘めようと
いふそなたの覚悟
私に異存など
ありません



久しぶりにこうして
会えたのにまた
別れねばならず
申し訳ございません

この親不孝な
日蓮をどうか
お許しください

人を救い世を救うために
身をささげるそなたの
これからの困難を思えば…

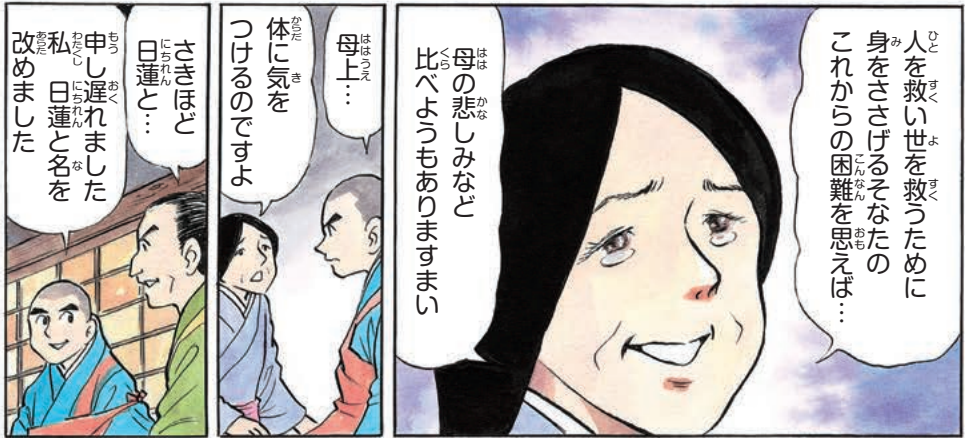
母の悲しみなど
比べようもありません

母上…

体に気を
つけるのですよ

さきほど
日蓮と…

申し遅れました
私、日蓮と名を
改めました



法華経は
日月のように
世を照らし
蓮華のように
世を清らかに
する教えです

うん
よい名じゃ

法華経のことを
教えてはくれぬか

はい
もちろんです



おまえの思いは
よくわかった

この故郷で
私達二人が
法華経の最初の
帰依者に
なるつかの



南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経



ああよくぞ
ご覚悟されました

早速
されば

こんなうれしい
ことはありません



これからは二人で力を合わせ、正法弘通を助けていくつもりだ。ぜひ我等に法名をつけてもらえぬか。



なんとありがたうれしいこと……

妙日
妙蓮

今日よりわじらもそなたの帰依者じゃ。



わじらはいつもお前を信じているぞ。体を大切にしてください。



旅立ちには路銀も要るでしょう。必要な物は入れておきました。持って行きなさい。



ありがたく頂戴いたします。

父上、母上、お二人のご恩は決して忘れません。



たとえ強敵に囲まれても
刀杖瓦石の難を受けようとも
法華経実践の大功徳は
一切衆生を仏に成すとの
釈尊の金言なれば
不惜身命の信念で…

南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経



南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経

「日本国中の人々を
救います」



南無妙法蓮華経

南無妙法蓮華経



つづく

最初の信徒

清澄寺を追放となった日蓮聖人は、地頭・東条景信の追討を逃れながら、ひとまず西条村の華房にある蓮華寺に身を寄せます。村の念仏者が集まって阿弥陀堂を新築したのですが、開堂供養に導師として立つ人がいませんでした。清澄寺での騒動を知らない村の人々は日蓮聖人に開堂法要を依頼したのでした。日蓮聖人は導師をつとめ、法要に臨みました。しかし、そこでも清澄寺と同じ説法をしたため、村人達の怒りをかうことになって村を出ていくことになりました。

その後、日蓮聖人は仏教改革の活動の地と定めた鎌倉をめざす前に、小湊の家にお帰りになりました。清澄寺での騒動に心を痛めていた両親に対して、ご自分の考えを懇々と話して伝える日蓮聖人。ついに父・重忠は夢から覚めるがごとく、わが子に合掌して、自分の解釈が間違っていたと語ったといいます。母・梅菊もまた、同様に教化を聞いて、「わが子ながら、わが子にあらぬ尊き方」と言って、法華経に帰依することを誓ったのでした。

わが子を思い、行く末の無事を祈るご両親に見送られ、日蓮聖人は鎌倉へと旅立つのでした。日蓮聖人にとって父・重忠とは、これが今生の別れとなりました。





お寺の本棚



『大白牛車(三)』


どこまでこらえられるか

世の中には大勢の人がいます。その一人ひとりがそれぞれに、思

っていることが十あったとして、自分の思い通りになることはせいぜい二つか三つではないでしょうか。それは、自分だけがそうなのではなくて、すべての人がそうなのです。ですから、一つでも二つでも思う通りになればそれで上出来ですが、なかなかそうは思えません。十の内最低七つか八つは思う通りにしたいと、勝手なことを願います。しかし残念なことに、うまくいくものはありません。そこで、ブツブツと愚痴を言い、腹を立てます。大切なことはどこで満足するか、どこまでこらえられるかです。

先日ある人に会いました。もう四、五年前になります。結婚式に出席させていただいた人です。その時、私は「結婚するということは、ガマンくらべ大会のようなもの」というお話をした





らしいのです。その人がそれをよく覚えていて「初めの内はピンときませんでした。最近ではあの時言われたお言葉の通り、毎日が我慢会です」と言っておりました。そこで、「そうですね。しかし、堪忍しているのは自分だけと思っていると、いつかその我慢にも限界が来ます。奥さんの方は君の何倍も我慢しているかもしれません」と言いました。

若い人からよく、「結婚の相性はどうか」という相談を受けます。正直申し上げて、相性ですべてが決まるわけではありません。結婚するならするで、お互いが仲良く、うまくやっ
ていけるような努力をしなければなりません。相性がいくらくても本人同士が「我」を出し合
って、修養しなければ、うまくいくはずがありません。結婚すると決めたら、何があってもうま
くやっ
ていこうと決心し、そのような努力をしていかなければならないのです。それが譲り合
い、我慢し合うということです。自分の思いを一方的に言い放つ人がいます。離婚する人の数が
増えている原因の第一もそこにあるのでしよう。

この本をもっと詳しく読んでみたい方は、法音寺本山、または各支院・布教所
までお問い合わせください。

常寂光土への誘い (4)

無量義經 徳行品第一

是れ諸の衆生の真善知識、是れ諸の衆生の大良福田、是れ諸の衆生の請せざるの師、是れ諸の衆生の安穩の楽処・救処・護処・大依止処なり。

その菩薩こそ「諸の衆生の真善知識」に迷っている人に本當の道を教え、自然に良い感化を与えてくださる友達です。「是れ諸の大良福田なり」に善い行いを積んで行けば、多くの幸福が生まれます。それは、地味の良い田畑に種をまいて、良い穀物を実らせるのと同じです。「是れ諸の衆生の請せざるの師なり」に相手に頼まれなくても機会を作って進んでみ教えを説き、心の迷いをなくして意義ある生活のできるように導くために努力することが尊いことで、それが菩薩の本當の道であります。

「諸の衆生の安穩の楽処・救処・護処・大依止処」とあります。この四処は、人を善に導いて、相手も安心して教えを学ぶような心を起こさせることです。「この教えを奉じて行けば安心だ」と信じられるように教えていくのです。すべての人々を「安穩の楽処・救処・護処・大依止処」とするように、菩薩はみ教えを実行するのであります。

処々に衆生の為に大良導師・大導師と作る。能く衆生の盲いたるが為には而も眼目を作し、

聾・聵・瘖の者には耳・鼻・舌を作し、諸根毀欠せるをば能く具足せしめ、顛狂荒乱なるには大正念を作さしむ。

「衆生の為に大良導師・大導師と作る」 〓 菩薩はどのような場合にも、大勢の人々の導師、即ち指導者となるのです。目の不自由な人のためには眼となり、耳が聞こえない人、鼻が効かない人、口が利けない人のためには耳となり、鼻となり、舌ともなり、「諸根毀欠」と言っ、て、身体 of のいろいろな部分に欠陥があつて不自由している人には、それを補つて満足できるように導くのです。そして、「顛狂荒乱」と言っ、て、心が統一を失つて乱れている人には「大正念を作さしむ」で、心をしっかりとめられるように導くのです。

船師・大船師なり、群生を運載し、生死の河を渡して涅槃の岸に置く。医王・大医王なり、病相を分別し薬性を曉了して、病に随つて薬を授け、衆をして薬を服せしむ。

菩薩は、船頭さんが大勢の人を船に乗せて行くように、人生のいろいろな変化に捉われ、迷っている人を覚つた状態に向かわせる勝れた指導者となつて「生死の河」を渡らせて、「涅槃」 〓 覺りを得た状態に向かわせるのです。又、み教えを世の中に弘めようとする人は、お医者さんと同じといふのです。

調御・大調御なり、諸の放逸の行なし。猶、象馬師の能く調うるに調わざることなく、師

子の勇猛なる、威、衆獸を伏して沮壞すべきこと難きがごとし。

インドでは昔から馬や象を、人を載せたり、物を運ぶことができるように訓練していました。これを「調御」と言い、馬や象などを調御する人を調御師と言います。人を教え導くには、その調御師のように、自分のわがままを正し、身を以って人を率いて教え、人々が自然に仏さまのみ教えに従っていくようにしなければなりません。獅子は最も勇猛な獣ですが、最も用意周密な獣でもあるように、何事にも全力を注いで相手の資質・程度によってみ教えを選択し、誠意を以って教え導けば、必ずすべての人を正しい道に導き入れることができるということです。

菩薩の諸波羅蜜に遊戯し、如来の地に於て堅固にして動ぜず。願力に安住して広く仏国を
浄め、久しからずして阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得べし。是の諸の菩薩摩訶薩、
皆斯の如き不思議の徳あり。

「諸波羅蜜」＝波羅蜜は「到彼岸」と訳され、「仏の波羅蜜」とは、既に彼岸に到達した完全な徳を言い、「菩薩の波羅蜜」は、これから彼岸に至ろうとするための修行、即ち菩薩行を言います。

「遊戯自在」とは、一挙手一投足が菩薩行に叶うこと。「如来の地に於て堅固にして動ぜず」とは、仏さまの境界に到達したいという望みを持ち、心が決して動かされないことです。「願力に安住して広く仏国を浄め」とは、「何とかして世の中の人々を救いたい」との願いを心の根本に置き、努力を続けていけば

仏国土、即ち、仏さまのみ教えの行われるこの場所、この世の中が淨らかになり、大勢の人々が感化されて安らかになるといふことです。そして、「久しからずして阿耨多羅三藐三菩提を成ずる」即ち、仏さまと同じ智慧を成就して、仏さまと同じ境界に到達することができるというのであります。

・大智舍利弗・智慧第一。・目犍連・神通第一。・慧命須菩提・解空第一。・摩訶迦旃延・論議第一。・富楼那・説法第一。・阿那律・天眼第一。・優婆離・持律第一。・侍者阿難・多聞第一。・仏子羅雲・密行第一。・大迦葉・頭陀第一。

かくのごとく、**是の如き等の比丘万二千人あり。**皆阿羅漢にして、諸の結漏を盡くして復縛着なく、真正解脱なり。

このような人が一万二千人もいたと言います。皆阿羅漢と言って「諸の結漏を尽くし」|| 一切の煩惱がなくなった人で、「縛着なく」|| 自分の境遇のために縛られるということがなく、自由自在に正しいことを正しく分別するだけの力があり、あらゆる迷いと苦しみから離れた「真正解脱」の人々であります。

ひろば

福祉の



SINCE 1912
SHOTOKUKAI



幸せのお手伝い

「何度もぶつかりながら
築いた大切な関係」

新たな気づきを与えてくれた

Aちゃん

私の忘れられない出会いは、前配属施設の地域小規模児童養護施設のAちゃんです。地域小規模児童養護施設には、男女6人の子どもが暮らしており、私は配属一年目から当時小学6年生のAちゃんを担当しました。

Aちゃんは周囲の子に比べて何においても器用にこなし、さらに負けず嫌いも相まってスポーツや学習などで良い成績を修めてきました。

そんなAちゃんは最初の頃は、会話しやすく

色々教えてくれて頼りになる存在でした。しかし、慣れてきた頃に、些細なことをきっかけにして、さまざまな方法でぶつかって、私を試してくれるようになりました。

最初は、何が起きたのか意味もわからず無視をされ、理由をきいても答えず、それでも先輩職員には、もっともな理由を話すという行動に、私自身とても困惑していました。

その度、何かあるなら直接伝えてほしいことや、Aちゃんのことをもっと知りたいと思っただけのこと、だからこそ話し合える関係になりたいことを伝えるようにしてきました。

そのうちAちゃんも大きくなってきて、私自身も先輩のアドバイスをやAちゃんの背景、特徴を理解していく中で少しずつ心を開いてくれるようになりしました。

そして、Aちゃんから、わざとケンカしたい、怒られたい自分がいることなどを話してくれました。私は、その気持ちを汲んでハッキリ思いを伝えてみたところ、またしばらく口を利かなくなることもありました。

もちろん職員ですから、その発言の背景や意図を汲み取らなければいけないことは理解しています。しかし、とても簡単には受け止められませんでした。

そんなことを繰り返しながら部活の退部や受験、アルバイトのこと、家族のこと、進路のことなど、色々な場面で先輩や後輩に支えてもらいながらぶ

つかってきました。

今は、Aちゃんと「もし同じ歳で学校にいても友達にはなってなかったと思う」と、お互い笑って話していますが、それくらい性格も真逆でした。だからこそ私自身、今まで生きてきた中で気づけなかったことに気づかせてもらいました。

退寮した今でもAちゃんとの関係は続いており、成人式の日にももらったお手紙は私にとって宝物です。

児童養護施設 駒方寮 自立支援担当職員 鈴木 里美



創立110周年記念福祉セミナーを開催!



写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭徳会
～『テクノロジー』×『福祉』で多様な生き方を考える～

令和4年10月1日(土)に社会福祉法人昭徳会 創立110周年記念福祉セミナーを法音寺本堂で開催しました。

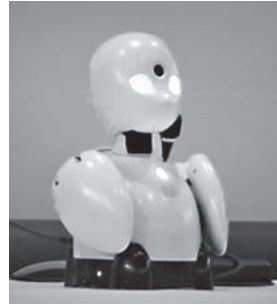
今回で13回目となる福祉セミナーですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2年間、開催を自粛しておりました。しかし、今年度は、社会福祉法人昭徳会 創立110周年の節目となりますので、感染症対策を徹底して開催しました。また、インスタグラムを活用して開催案内をしたところ、県外から参加してくださった方もおり、定員を超える総勢203名の方にご参加いただきました。

今回の福祉セミナーは、『テクノロジー』×『福祉』で多様な生き方を考えるをテーマに、分身ロボットO・H・H・O (オリヒメ) を開発された、吉藤オリイ氏(株式会社オレイ研究所長)を講師にお迎えし、ご講演いただきました。吉藤氏は、不登校を経験され、ご自身の療養経験と寄せられた相談から「孤独の解消」を研究テ



ーマに、2009年から分身ロボットの開発に取り組み、2012年に株式会社オリイ研究所を設立されています。

講演では、分身ロボット O.HiMeによる新たな働き方、社会とのつながり方について、分身ロボット



O.HiMeを活用し、自分らしく生きようとされている方々のお話をいただきました。

ALS（筋萎縮性側索硬化症）により寝たきりで生活をしている方が、会社で働いたり、病院にいらっしゃる方が学校で授業を受け、友達との大切な時間を過ごされたりと、さまざまなエピソードをうかがい、「できないからこそ、考えはじめる」「できないことに価値がある」ということを教えていただきました。

『テクノロジ』と『福祉』を結びつけることで、新たな対人援助の方法や人とのふれあいが誕生し「できないことができるようになる」という、人の生き方について無限の可能性を感じました。

また、当日は分身ロボットO.HiMeの実演もしていただき、さらには、吉藤氏が常に身に着け、トレードマークにもなっている「黒い白衣」の誕生秘話まで教えていただき、笑いあり、感動ありのとてもすばらしい講演でした。

講演後に実施した書籍販売では、サイン会が開催され、吉藤氏が本を購入した方々にサインもしてくださいました。

また、今回の福祉セミナーの会場には、昭徳会の運営施設である、障がい者支援施設「小原寮」と、障がい福祉サービスマス事業「授産所高浜安立」の販売ブースも設け、障がいを持った方が作ったお菓子や商品を、多くの方に知っていただく機会となりました。

今回、福祉セミナーを開始するにあたり、多くの方のサポートをいただき開催することができました。また、日本福祉大学、一般社団法人愛知県老人福祉施設協議会、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会よりご後援いただき、心より感謝を申し上げます。

福祉セミナー実行委員長 法人本部事務局 事務員

古田 優佳

社会福祉学部がハンセン病療養所を訪問しました

～日本福祉大学～

ゼミナール活動の一環として本学社会福祉学部3年の4名の学生が、岡山県瀬戸内市にある国立ハンセン病療養所長島愛生園を訪問しました（8/19～20）。

コロナウイルス感染対策に留意しながら2日間をかけて療養所内のフィールドワークを行い、歴史館の見学、学芸員さんからの講話、併設されているカフェで行われる「語り継ぎ」の実践にふれさせていただきました。

長島愛生園のみならずハンセン病療養所では、来園者に語り部としてお話をすることのできる方が極端に減少し、療養所を訪問しても、入所者に会えないことも少なくありません。今回のフィールドワークでは、長島愛生園の自治会長の中尾さんもお挨拶にいらして「今日おいでくださった皆さん方は、初めて愛生園に入園したという気持ちでおいでいただいたと思います。これから私達の生活の一部分を見てもらいますけども、そこで色々なことを学芸員から聞いていただければと



写真提供・日本福祉大学

「思います」とお声掛けいただきました。

学生達は事前にある程度の学習を済ませ当日を迎えました。が、「当時、ハンセン病は大変恐ろしい伝染病というイメージが一般的に浸透していたため、ハンセン病に感染したとわかった時には、恐怖や不安の感情しかなかったこと」また、「療養所の内と外の環境の違いが療養所の外での生活を許さなかったこと」など、当時の様子を現地の空気とともに学びました。

実際に現地を訪問し、施設を見学して入所者さんの生活にふれることで、大学での授業だけでは学ぶことができない様々なことを学ぶことができ、「人権」と



は何かを改めて考えることができました。参加した学生の感想を以下に紹介します。

「長島愛生園は、日本の感染症の歴史にとって重要だと思いました。

療養所を訪問するまでは、正直悲しい出来事を残す場所、古い建物を見るだけだと思っていました。しかし、療養所の中はリニューアルされていて、想像とは違って抵抗なく見学できました。園内でご説明いただいたお話では、ハンセン病が何であったかというより、感染に対しての考え方、向き合い方のメッセージが強かったことが印象的でした。今、ちょうどコロナ禍の世界で生きる私達だからこそ、何か刺さるものがあると思ったし、今行くから見える大切なことがあるのだと思いました。」

鈴木修学先生は、生の松原（ハンセン病療養所）で責任者として2年半活動されました。その運営には大変なご苦労があったことは『日本の福祉を築いたお坊さん』の本にも掲載の通りです。ハンセン病療養所での学びは「人権」をはじめとした様々なことについて、改めて考える重要な機会であると思います。今後も継続的にこのフィールドワークを続けていきたいと思えます。

社会福祉学部 小林 洋司

幸せの種まき

法華經を信ずるとは

〃実行する〃ということですよ

慈悲でも堪忍でも

実行しなければ意味がありません

大乗山 法音寺

編集後記

今号では、去る9月24日にご逝去された鈴木真喜子お庫裡さまの追悼特集を組みました。

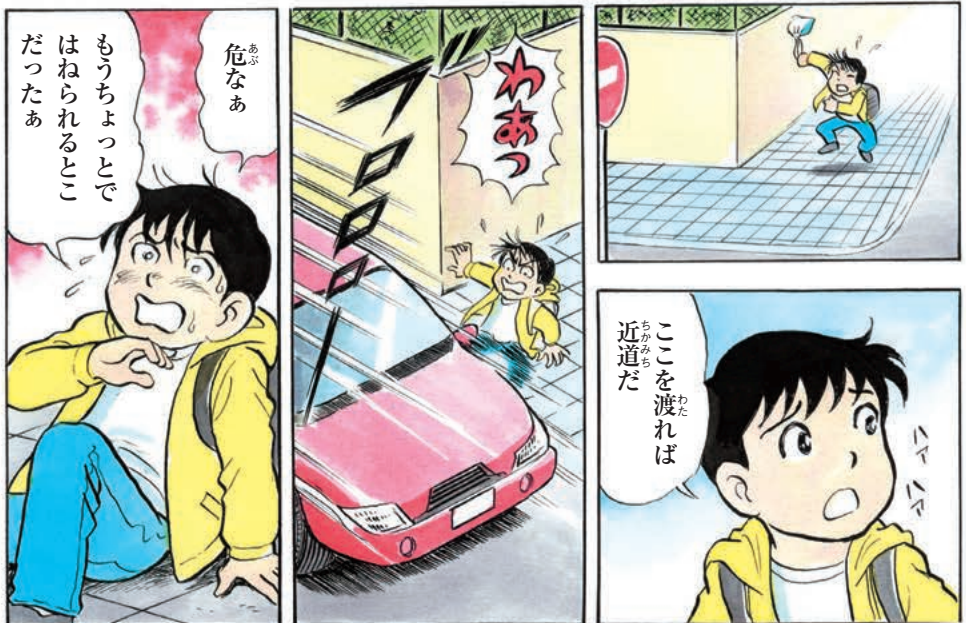
お庫裡さまは、誰に対しても分け隔てなく、本当に細やかなお心遣いをされる「法音寺三徳」のお手本とも言うべき方でした。そんなお庫裡さまの突然の訃報に法音寺につながる誰もが深い悲しみに暮れました。それでも私達は、お庫裡さまとともに過ごした日々をこれからも決して忘れることなく、前を向いて、少しでもあのお姿に近づいていけるように精進を重ねていかなければなりません。ご自分のこと以上に法音寺に関わる人達のことを大切にされる心優しいお庫裡さまでしたから、いつも私達を見守ってくださいと思います。私達にもいづれこの世を旅立つ日が訪れるでしょうが、いつの日か、あちらの世界で再びお庫裡さまにお目にかかる時に、〃ああ、本当に良い人生を生きたね〃と言っていただけのように功徳を累ねていきたいものです。

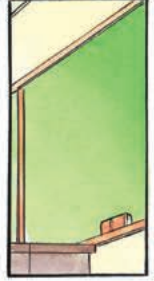
お庫裡さまのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

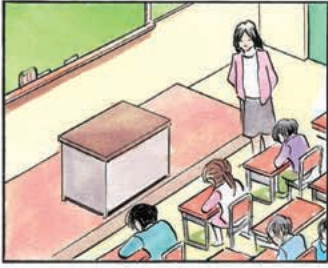
運の悪い1日

竹中 淳









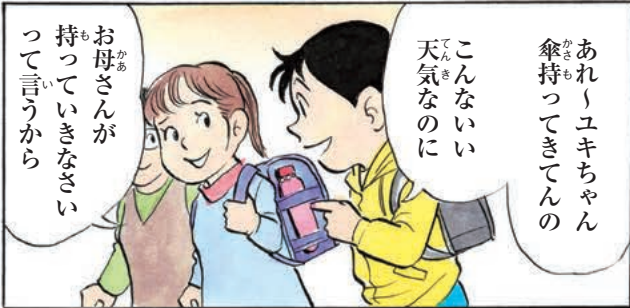
蓮くん
終わらせよう？

うん
もう
終わるよ



さようなら

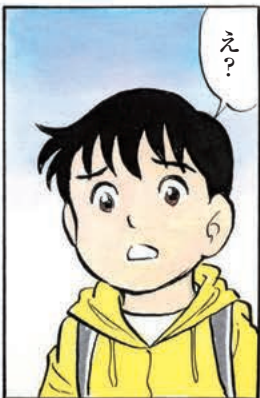
じゃあね



こんないい
天気なのに

あれ、ユキちゃん
傘持ってきてんの

お母さんが
持っていくさい
って言うから



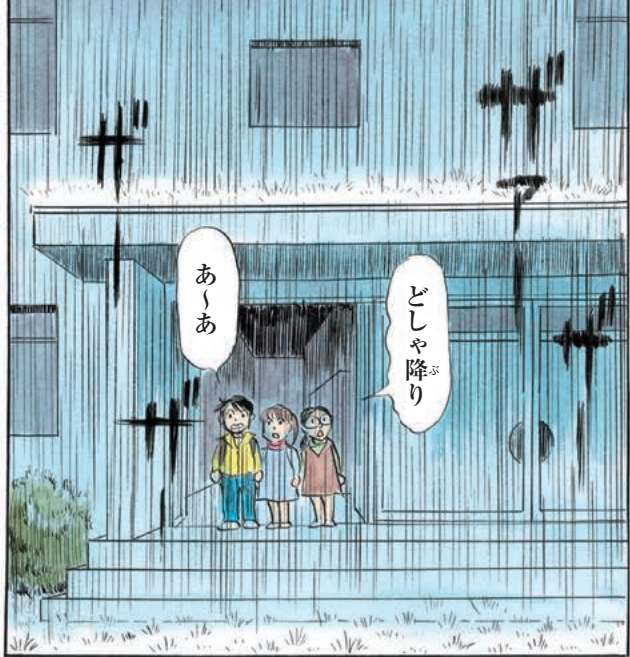
え？

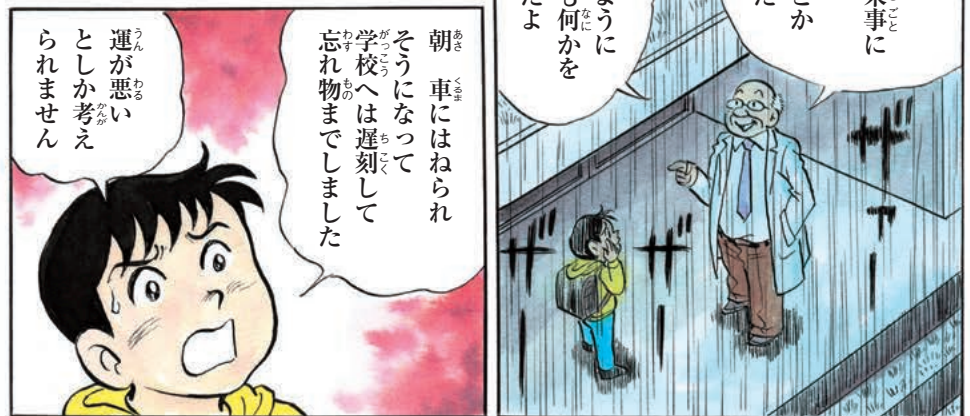
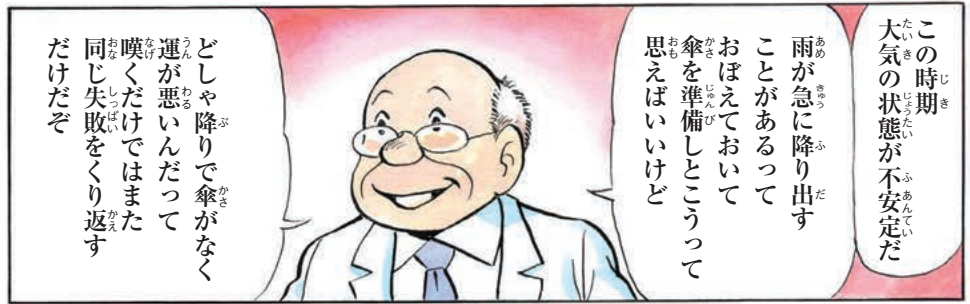


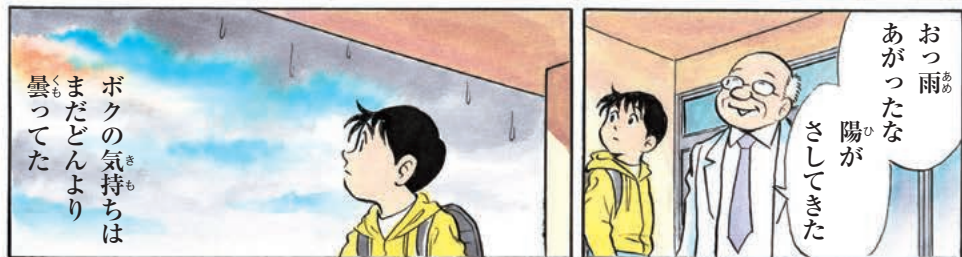
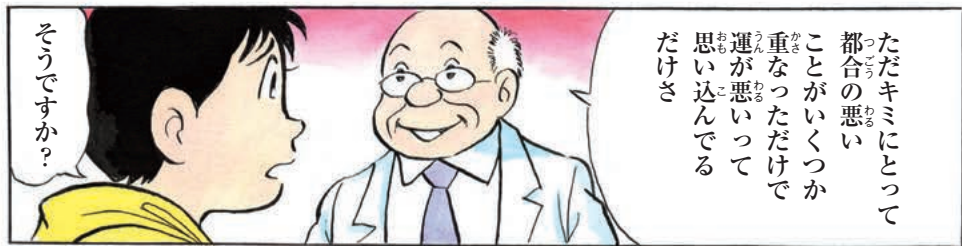
あれ何の音？



ハハハ 天気予報
晴れマークだったよ
降るわけないよ

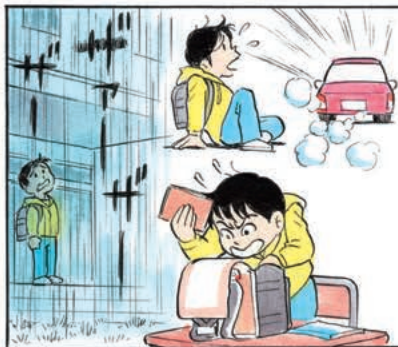






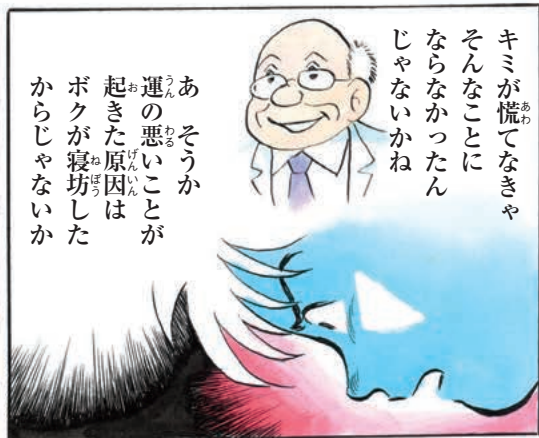
ひろみちゃん
ゴメン
ボクはもう
立ち直れないよ

どうしてこんなに
運が悪いんだろう
これからもずっと続くのかな



キミが慌てなきや
そんなことに
ならなかったん
じゃないかね

あ、そうか
運の悪いことが
起きた原因は
ボクが寝坊した
からじゃないか



それを母さんの
せいにして…
最低だな

今日帰ったら
早く母さんに
謝らなくちゃ



蓮くん

フフ…ごめん
心配かけて



心配
したん
だゾ

今日は早く帰る
九九も一から
やり直さなきゃ



おしまい

法音寺物語

社会福祉という言葉がなかった時代…
人々を本当の幸せにする仏教の精神で
社会的弱者を救済する人達がありました。



貧困にあえぐ人達に食料や医療を施し、
差別を受けたハンセン病を患った人々に
寄り添い、様々な事情で親をなくした
子ども達を養育し、障がいを持つ人々に
生きる希望を与えてきました。



お寺になったのは戦後(昭和22年)のこと。
初代住職・鈴木修学上人は、福祉施設を
運営する中で、本当に人々を救済するには
“専門的知識を身につけた人材が必要”と考え、
日本初となる社会福祉教育専門の4年制大学・
日本福祉大学を開設しました。



その後、“仏さまの教えを実行し、困っている人達を
救済しよう”という理念に共鳴する人達が各地に
増え、全国に40の支院・布教所が設置されました。
多くの心ある人達の善意に支えられて、現在では、
高齢・障がい・児童の19福祉施設が運営され、
大学では多くの学生が社会福祉を学んでいます。





勇猛精進

相手を満足させればすぐ喜びがくる
相手をいたわれれば喜び合う日が必ずくる

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
https://www.houonji.com FAX.052-831-9801



講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分

ホームページにて月刊法音を掲載しています

SNSでつながる法音寺

法音寺公式
facebookで
毎朝7時
『一日一言』
配信中!!

こちらの
QRコードから
ご覧いただけます。



毎週火曜日
法音寺メールマガジン
配信中!!

山首上人のみ教えや毎月の予定、
人にやさしく生きていくための
コツなどを配信します。

こちらのQRコードから
メールマガジン登録フォームを
ご覧いただけます。



YouTubeにて
法音寺チャンネル
開設中!!

[https://www.youtube.com/
user/houonjimovie](https://www.youtube.com/user/houonjimovie)

こちらのQRコードから
法音寺紹介動画を
ご覧いただけます。



詳しくはホームページ、またはYouTubeサイトで

法音寺

検索

法音寺の社会福祉・教育事業

徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

- 児童養護施設
- 障がい児入所施設
- 障がい者支援施設
- 特別養護老人ホーム
- 障がい福祉サービス事業
- 養護老人ホーム
- 軽費老人ホーム
- 保育所
- 軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)
- 自立援助ホーム

法人本部

〒466-0832 愛知県名古屋市長和区駒方町4-10
TEL (052) 831-5171
<https://www.syoutokukai.or.jp>



我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

- 日本福祉大学大学院
- 日本福祉大学
- 日本福祉大学中央福祉専門学校
- 日本福祉大学付属高等学校

法人本部

〒470-3295
愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6
TEL (0569) 87-2211
<https://www.n-fukushi.ac.jp>

